

「食育」活動の総合的な展開

国民一人一人が食の安全と安心について自ら考えるための全国及び地域段階の「食育」活動の重層的な推進、食の生産現場の実体験等を通じた子どもの頃からの食に対する関心を醸成するための取組等を推進。

12,330(7,342)百万円

1 ポイント

社会経済情勢の変化に伴い、食料の消費及び供給構造が大きく変化する中で、食生活上の問題が顕在化するとともに、食の安全性に対する関心が非常に高まっている中で、国民一人一人が「食」について関心を持ち、自ら考える習慣を身につけることを促す「食育」を積極的に推進するため、関連事業を総合的に展開する。

2 事業内容

○ 「食育」を推進する国民的な活動の展開 1,500(0)百万円

「食を考える国民会議」の活動強化、「食を考える月間」の推進、マスメディア等各種媒体を通じた情報発信活動等を全国的に展開するとともに、食育推進ボランティアの登録・活用を進め、地域特産物や伝統的食文化など各地域の特色を活かした「食育」の実践活動を展開。

3 関連施策の推進

○ 子どもたちに対する農漁業体験学習 4,182(1,982)百万円

食の生産現場の実体験を通じて、食や農などへの理解を促すため、生産者サイドと連携した農漁業体験活動を展開。

○ 学校給食等を通じた啓発活動 5,633(5,294)百万円

日常的な給食などの学校生活を通じて、子どもたちに食に対する関心を持たせるための啓発活動を実施。

○ 消費者と生産者との情報交換の促進 1,015(65)百万円

食と農の距離を近づけ、消費者と生産者の顔の見える関係を構築するため、消費者が求める情報を分かりやすく提供するとともに、生産者との情報交換を促進。

○ 「食育」を推進する国民的な活動の展開

<全国段階での「食育」の推進>

① 「食を考える国民会議」及び「食と農の応援団」の活動拡充・構成員の拡大

「食を考える国民会議」…消費者団体、生産者団体、食品産業関連団体等で構成。約660会員。
「食と農の応援団」…食に関する広範な有識者で構成。約160名。

② 総合的な情報提供活動

- ・リーフレット等関連資料の作成
- ・マスメディアを活用したキャンペーン活動の展開
→子ども向けのTV番組、新聞等含む

③ 食を考える月間

- ・「食育」に関するシンポジウムの集中的開催
- ・伝統的な食材・食文化の保存・継承や味覚の教育などスローフード運動の理念を取り入れた食を見つめ直すイベントの開催

④ 食育推進・実証活動

- ・優れた取組を実施した学校の表彰
- ・大学を中心とした有識者のプロジェクトチームによる「食育」の多様な実践方策に関する実証的な研究活動の実施

等

<地域段階での「食育」の実践>

① 食育推進ボランティア

- ・食品衛生・栄養改善・農業生産・食文化等各分野のボランティアの登録、講習会・情報交換会等による資質向上
→全国で約10万人を目標

② 食の体験学習

- ・地元の食品産業の見学・作業体験を通じた食料生産過程や食の安全についての理解促進

③ 地産地消の推進

- ・地域食材を媒介として、消費者が地域農業や食文化を学び、生産者と消費者の相互の信頼関係を醸成するための取組に対する支援
- ・地域食材を活かした給食を通して、食文化や食の安全・安心、食の選び方や組み合わせ方などを学ぶ機会を提供

等

一
体
的
実
施

[担当窓口課：総合食料局消費生活課（03-3502-1955（直））]